

令和7年3月18日
那覇市消防局

Nser-NET による救急 DX 推進

那覇市救急搬送支援システムの運用開始

～救急搬送の迅速化、救急業務の効率化への取り組み～



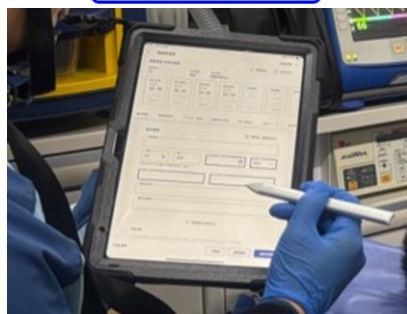
※訓練中の様子です

那覇市消防局では、令和7年4月1日(火)より、参画医療機関及び協力事業者(TXP Medical 株式会社)と連携し、那覇市救急搬送支援システム「通称:Nser-NET」(*)の運用を開始します。
(※Nser-NET…エヌサーネット:Naha Safety Emergency Rescue-NETWORK)

■Nser-NET の概要

- ① タブレット端末を使用して画像 OCR や音声入力などの機能を活用し、傷病者情報を集約
- ② 搬送予定の医療機関へ傷病者情報を送信し、電話連絡に加えて 病院側で情報を可視化できる
- ③ 帰署後、タブレット端末から消防 OA ヘデータを取り込み、報告書作成時間の短縮化

救急現場



OCR機能により、保険証やお薬手帳、モニター画面をテキストデータに自動変換される。音声入力もあり。

病院連絡時



従来の通話に加え、病院側で傷病者情報を可視化することができる。現場写真も送信可能。

院内連携



オンラインの情報受信端末から
オフラインの電子カルテに
QRコードでデータを転送

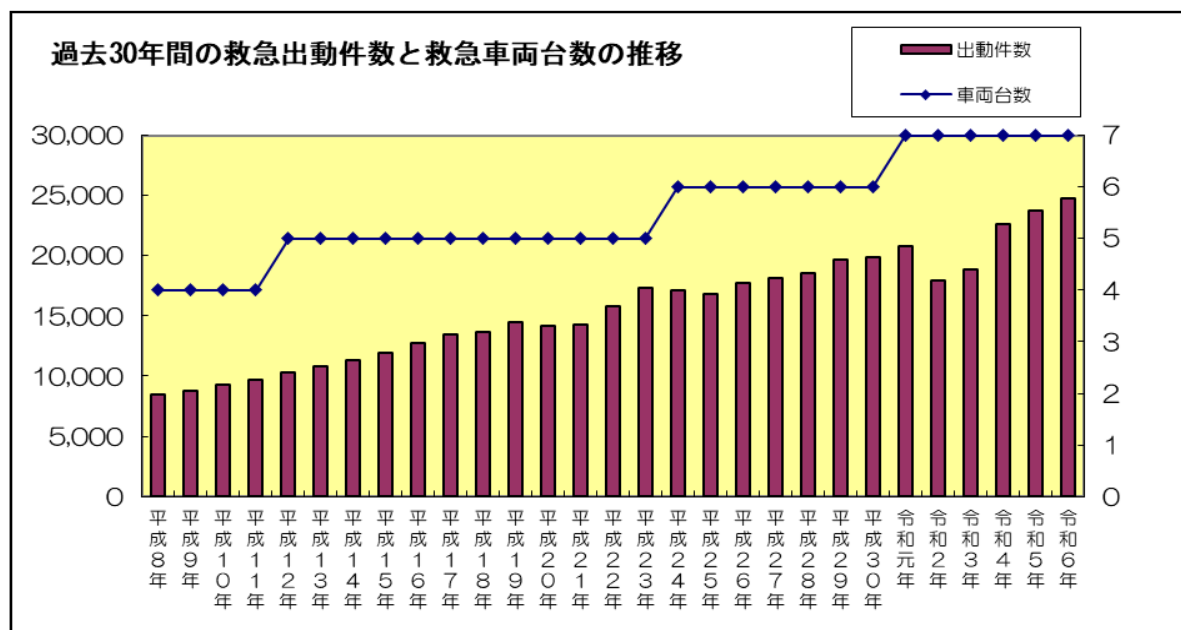
QRコードを介してオフライン連携で
電子カルテ(SOAP欄)へ転記可能。

システムに関するお問合せ先
那覇市消防局 救急課 大城・金城
(098-867-1199)naha_f_kyu001@city.naha.lg.jp

■那覇市の救急体制の現状

令和 6 年中における救急出動件数は 24,776 件を記録し、3 年連続で過去最高を更新しました。特に、令和4年以降、救急要請件数の急増と、沖縄県内の救急医療ひっ迫状態が重なり、救急隊が現場に到着しても、受入先が見つからない救急搬送困難事案※が急増しており、市民サービスへの影響及び、昼夜を問わず長時間の救急活動となる救急隊の業務負担は極めて過酷な状況に陥っています。このような背景の下、迅速かつ効率的な救急体制の整備が急務とされています。

(※救急隊による「医療機関への受入れ照会回数4回以上」かつ「現場滞在時間 30 分以上」の事案)



※令和7年2月に小禄南救急隊を発隊し、8隊体制となる

■Nser-NET の運用

- ・那覇市消防局:全救急隊(中央・神原1・神原2・首里・国場・西・小禄・小禄南)
- ・参画医療機関:22 医療機関(那覇市内の救急病院を中心とした県内医療機関)

■市民の皆さまへお願い

本市救急隊が保険証やお薬手帳等をタブレット端末へ取り込みさせていただくケースがあります。個人情報、厚生労働省が制定する「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」、総務省及び経済産業省が制定する「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」に準拠して適切に管理いたします。ご理解のほどお願いいたします。



システムに関するお問合せ先
 那覇市消防局 救急課 大城・金城
 (098-867-1199)naha_f_kyu001@city.naha.lg.jp